

平成25年 第1回 築上町議会定例会会議録(第4日)

平成25年3月12日(火曜日)

議事日程(第4号)

平成25年3月12日 午前10時00分開議

日程第1 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 一般質問

出席議員(14名)

1番 小林 和政君	3番 丸山 年弘君
4番 工藤 政由君	5番 工藤 久司君
6番 有永 義正君	7番 吉元 成一君
8番 田村 兼光君	10番 西畑イツミ君
11番 塩田 昌生君	12番 中島 英夫君
13番 田原 宗憲君	14番 信田 博見君
15番 武道 修司君	16番 西口 周治君

欠席議員(2名)

2番 宮下 久雄君	9番 塩田 文男君
-----------	-----------

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長 進 克則君	書記 則松 美穂君
----------	-----------

説明のため出席した者の職氏名

町長	新川 久三君	副町長	八野 紘海君
教育長	進 俊郎君		
会計管理者兼会計課長			田中 哲君

総務課長	吉留 正敏君	財政課長	則行 一松君
企画振興課長	渡邊 義治君	人権課長	松田 洋一君
税務課長	田村 一美君	住民課長	平塚 晴夫君
福祉課長	高橋 美輝君	産業課長	中野 誠一君
建設課長	平尾 達弥君	都市政策課長	久保 和明君
上水道課長	加來 泰君	下水道課長	古田 和由君
総合管理課長	宮尾 孝好君	環境課長補佐	進 信博君
農業委員会事務局長補佐			加来 直之君
商工課長	神崎 一浩君	学校教育課長	金井 泉君
生涯学習課長	田原 泰之君	監査事務局長	石川 武巳君

質 問 者	質 問 事 項	質 問 の 要 旨
小林 和政	1. 築上町は変わるか	<p>長期的視点における基本的考え方の方向は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町のイメージ作り ・町政運営の原則 ・産業構造の将来
工藤 久司	1. 築上町の今後について	<p>色々な施策をしてきたと思うが、どれも中途半端な気がします。今後の重点施策について</p>
	2. 公共施設の見直しについて	<p>コミュニティセンターが完成したが、他の施設の利用・活用・見直し等をどう考えているか。</p> <p>老朽化施設に対する対応は(小・中学校等)</p>
信田 博見	1. 光情報通信について	<p>築上町のためにどのように生かす考えがあるか。</p> <p>光テレビについて</p>
	2. 農業・林業のシカ被害について	<p>広域で取組むのはどうなったか。</p> <p>林業の被害が著しいが対策は。</p>
工藤 政由	1. 今後の町政運営について	<p>町づくりをどう考えるか。</p>

午前10時00分開議

議長(田村 兼光君) 皆さん、おはようございます。ただいまの出席議員は13名です。定足数に達していますので、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

日程第1. 一般質問

議長(田村 兼光君) 日程1、一般質問です。

これより順番に発言を許します。発言は、昨日の続きの議員からとします。

8番目に、1番、小林和政議員。小林議員。

議員(1番 小林 和政君) おはようございます。なんか朝一番から楽しい雰囲気になりそうで、非常に楽しみでございます。ちょっと朝一番眠たいような状況でございますが、中学生たちが今一生懸命国語の入試に挑んでおる状況、一生懸命やっておりますので、私もそれに負けんように一生懸命やろうと思っております。どうぞ御協力をお願いいたします。

私の通告、築上町は変わるかっちゅう内容で届け出ておりますが、何じゃ、こりゃというようなイメージを持たれた方が多いんじゃないかと思うんです。中身がわからんように書いたというふうに御理解いただきたい。

というのは、どういうことかといいますと、私も中身がよく理解できないでおるから、このような内容を書いたわけでございます。要するに、何がお尋ねしたいかっちゅうと、この今築上町が進んでいっておる状況が、どのような目標に向かって行って、今どのような状況にあるんかっちゅうことをちょっと確認してみたいと思って、いろいろ考えてみたんですが、なかなか理解ができない。私も頭の中で整理ができてない状況でございます。

そのような中で、少し将来どのように進んでいくのかをお尋ねしながら皆さんと一緒に考えていきたい、こういうふうに思ってきょうの時間を使いたいと思いますので。

実は、昨年私ごとでございますが、静岡のほうに息子の結婚式があつて行ったんですよ。そのときに、挨拶の中で息子のふるさとの、時間があるんで、ふるさとの紹介を少し入れてくださいと、こういうふうに頼まれたわけですよ、急遽。それで、この築上町をどんな説明をしようかと思ったんですよ。場所は静岡でございます。いらっしゃる方々は、大学の関係でいろんなところから、かなり広いところから集まっていたので、全くわけわからん。そんな人にどんな説明をしようかっちゅうて物すごく悩んだんです。

結局、私はこういう内容で説明しましたんですが、自信はありませんでしたけども、学問の神様の菅原道真公という方が京都で左遷された。それで太宰府に移された。そのときに瀬戸内海をまっすぐ来た。まっすぐ来てぶち当たったところが、九州に最初にぶち当たったところが私たちの町ですと。その浜で地元の漁師の方々が尊い方をお迎えするのに、船をつなぐ綱を集めて、渦巻き状に巻いて上陸をしていただいたと。そして歓待した。その場所に今でも綱敷天満宮という立派なお社があつて、非常に盛んに進められておると。その上に航空自衛隊の築城基地がジェット機をバンバン発進させて、大きな爆音の中で生活をしておる、こう

いう町が私たちの町ですと、私はこういう説明しかできんやったんです。

これでいいかな、今でもまだ悩んでおるわけです。何かもうちょっとイメージがよくなるような紹介があったんじゃないかと、私はそう思うんですが、町長、今あなたはこの築上町の一番のアピール、今言うような状況、全国的に向かって全国場で発言せんならんような場合に、どのような点をアピールをされたいかということ、町長どのようにお考えになっておるか、これをちょっと先にお尋ねしたいですね。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 結婚式の挨拶にかねて言っているんですかね。

議員(1番 小林 和政君) はい、どうぞ。

町長(新川 久三君) 実は、私のまちはやっぱり歴史といろんな史跡がある町ですというようなことで、やはり一番最初の分は、やっぱり何といっても本庄の大楠が景行天皇のお手植えの楠ということで、樹齡が1900年あるという形だろうと思います。

そしてまた、先ほど言った菅原道真公もしかり、そしてまた非常にやっぱり多くの偉人を輩出しておるところでございますし、例えば日日新聞ですかね、征矢野半弥さんがこの付近の家のすぐ近くの出身だと思えますけど、そういうもう相当な偉人がこの地方から出ておるところでございますし、数を上げれば切りがないわけでございますけれども、そういう形の中でやっぱりもう本当に歴史、これをやっぱり私は一番、そしてその中で生活をした豊の国という形の中で、産物も豊富であるというような形になろうかと思えます。

近年では、政策としては先ほど言った航空自衛隊基地の町という、これはもう当然現在の現実でございますけど、あとはやはり何と言っても、基本的には今の風光明媚な自然を有しておるということで、生活するのはしやすいところでございますというふうな形で、これは説明できるのではなからうかなと。

それから、町についても非常に穏やかな町であるというふうなことで、説明をしていただければありがたいかなと、私はそういうふうに思っております。

以上です。

議長(田村 兼光君) 小林議員。

議員(1番 小林 和政君) 今たまたま町長が福岡日日新聞というお話が出ましたので、私もひとつそのお話をしたかったんですよ。町長蔵内邸を今盛んに進めておられます。蔵内邸が今から明治20年ごろに母屋と玄関棟がつくられたと。120年ぐらい前ですかね。その当時のこのあたりがどうなんだろうかっゆうことで、私もちょっと調べてみました。

ある本の内容でございますが、ある本の中に福岡日々新聞に載せられた記事があるんですよ。1901年(明治34年)の4月2日付の内容に、みやこ町出身の堺利彦という有名な方がおられます。先人がおられます。いい悪いは別として、そういう先人の方がおられる。この方が、この豊前のところの風土を紹介した記事が載っておる。ちょっとこれを御紹介したいと思えます。ちょっと順番はずれましたけど、これを御紹介したい。

この時代背景は、蔵内邸の玄関母屋ができて十数年たったころの時代です、34年ちゅうのは、世界的な

風潮からいうと、日清戦争に日本が勝って、日露戦争に始める数年前、三、四年前ぐらいの時期ですよ。この時期に日々新聞に載った内容です。ちょっと読んでみます。「豊前の国風は引込み思案にあり。お上に逆らわざるにあり。旅に出ざるにあり。危ういことをなさざるにあり。とかく近所に事なかれという主義にあり」このように紹介されてる。

豊前地区、要するにこの地区ですね。の風習はこういうような感じなんだというふうに紹介されてる。昔からこの地方は、先ほど町長もおっしゃいましたけれども、非常に穏健な土地柄で気候がいい。農作物がよくとれる、ですから、幕末の時期の混乱期はちょっと混乱があったかもしれませんが、それ以外の時期にはほとんど一揆みたいなことも発生しないような時期であって、こういうような風土があったから、先ほど町長も御紹介してありましたような偉人たちがたくさん出てきた、こういうふうに見えると思うんです。

このような風土の中で今現在考えてみますと、同じような状況じゃないかと、風土はですよ。いろんな外からの力によって変化はあつただろう。しかし、心根、心の中にある気持ちというようなものは、この時代の風潮がそのまま来ておるんじゃないかという気が私はするんですが、町長はいかがお感じになってますか。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) その風潮も名残は多くあると思いますけれども、やっぱり時代の変遷とともに少しずつは変わってきてるんじゃないかなと私は感じてます。

議長(田村 兼光君) 小林議員。

議員(1番 小林 和政君) はい、私もそう思うんですよ。実は、先ほど申し上げましたように、途中で3回の戦争があつてますよね。その中でそのような風潮の中にあつたとしたら、これは大変な状況になっています。事なかれ主義が主な考え方にするような風土であるとするならば、お上に逆らわないんだから、おっしゃるとおりにいたします、こういう状況だった。

ということは、当時の権力を持った人たちにとっては、非常に御しやすい土地柄。だから、御しやすいということになれば、当然一番権力を持った方がしっかりした対応をしてもらわないと、何らかの形でよくない考え方を心に持った人が牛耳っていきこうと思えば、割と簡単にやっつけていけるんじゃないかと、こういうような風土ではないかと、私はこういうふう感じておるんですよ。

だから、しっかりした倫理観を持った、あるいはしっかりしたマクデ感を持った考え方でリーダーがリードしていただきたいと、こういうような気持ちで私は町長に今からお尋ねしてまいりたいですよ。町長、そういうお考えで進めておられると思いますが、いかがでしょうか。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 私は、住民のやっぱり安心・安全というものを考えながら行政をやっていくというものを踏まえております。もし私が間違ったことをやれば、基本的には住民運動で罷免という立場、これは過去にも本町では何回かあつておる状況もございますし、そういう形で非常にやっぱり自分がまずいことをやれば、住民の皆さんはやっぱりちゃんと見ていただいておりますという形で、私はそういうふう考えておるところでございます。

います。

議長(田村 兼光君) 小林議員。

議員(1番 小林 和政君) そこで、少しずつお尋ねしてまいりたいと思いますが、この長期的なビジョンで私が上げております、この私が一番お尋ねしたいのは、これからどのように進めていかれるか、これをお尋ねしたいわけですよ。築上町になってから7年がたちました。私はこの築上町の寿命というのは、恐らく50年程度だろうと思ってるんです。

どうしてかといいますと、旧築城で言いますと上城井、下城井、築城村が約50年で合併になったわけですよ。そして、築城町と椎田町も約50年で合併になって大きくなりました。50年の寿命と申し上げておりますのは、50年たったときに新たな合併が起こるか、あるいは逆の方向にいくかこれはわかりません。私は今の考え方としては、大きくすることがいいとは思ってない。こういう考え方から、きのう出ておりました中学校の統合に関しましても、2校を一つにすることではやらないと。2校のままいくという考え方だそうですが、これは大きくしないという考え方なんです。

私は、日本は第二次大戦においても、大東亜共栄圏という大きな塊で生きていこうとする方向にいった、それが間違っていたというふうに考えておるわけですよ。だから、大きくすることが財政的な面ではある程度のメリットは発生するかもわかりませんが、大きくすることが全ていいことだというふうには考えておりませんので、2校を一つにするという考え方は、多少違和感がありました。

いい、悪いは過程がわかりませんので、いいとか悪いとかは申し上げませんが、大きくすることはいいんだというふうな風潮には反対であるという考え方から、私は将来築上町がもう一つ上の合併をするというようなことになったときには、天国から反対したいという気持ちであります。

そういう気持ちである私が、今から50年間の築上町の流れをどういうふうに考えていきたいかちゅうことをお尋ねしていきたい。きのうの質問で吉元成一議員が、庁舎の建設については50年、100年先まで考えて向かうべきだというような発言をされておりました。私もそう思います。ただ、建物の寿命は、いいとこ50年でしよう。

ところが、むしろ心の中の伝統というのは、そんなに簡単にとれませんよね。だから、新しい築上町になったときに、その基本的な精神的な支柱になるような考え方を、もう7年たちました。これがどこかに見えるかなというふうにして、いろいろ当たってみたんですが、私まだ見つけきらないですよ。

だから、それを何とか早い段階でつくっていく、こういう方向に行くようにするのが、築上町が変わるんじゃないかというふうには私は思っておりますが、今年度の予算の紹介が、これ毎日新聞ですが3月2日の記事に、新年度予算案の紹介がよその地区と並んであるわけですが、今年度予算案の中に、新規事業については、これ新聞の紹介ですけね。新規事業は不妊治療の助成金に100万円、空き家除去費補助120万円などということで、新しい予算の内容についてはその程度の紹介がされております。これで新しい方向が紹介されたということじゃないと思うんです。予算を見ても、どういう方向に行くんだらうかということが

よくわからんわけですよ。

今まで町長、あなた7年間築上町の町長として担当してこられて、この7年間を通じてこの予算だけは重点的に徐々にふやしていくとか、あるいは、絶対これだけ確保するとか、そういうような何らかの内容がございましたでしょうか。その点をちょっとありましたら御紹介いただきたい。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 私は、選挙のたびに私のいわゆるマニフェスト、公約というものを掲げて選挙に臨んでまいりました。その中で、まずやはり基本的には公平公正、それから信頼のおけるまちづくりと、これをモットーにやってきたわけでございます。

そしてまた、施策については、やはり子育て支援とかそういう一つの学校の関係で非常に荒れておりました。そういう学校の荒れを、できるだけこれをやっぱり平穏な学校にしていくということで、教育委員会のほうにもいろんな予算があればどんどんつけるよというようなことで、子育て支援、教育については予算は私は惜しみなくつけてきておるつもりでございます。

そういう形の中で、ハードをその分若干私は抑制してまいりました。きのうの質問でも申しましたけれども、いろんないわゆる社会資本の整備というのは、これは非常にすれば目立つわけでございますけれども、その間、合併してから7年間ですか、ハード整備というのは極力抑えて、後年度に備えいわゆる町債、町の借金は減らさなければと、それから、貯金をふやしていかなければということで、その結果30億円の借金を減らすことができ、逆に預金は30億超える預金できておると。

そして、あと今年度のいろんなやはりインフラ整備、これは当然減価償却もやっておりませんので、これを減価償却のつもりで積立金をやっていくと。そして、次々に今ある施設の更新をやっていくという形になるのかと思います。

ちなみに、公約でやったことは、大体ほぼ私は達成しておるんじゃないかなと、このように考えております。

議長(田村 兼光君) 小林議員。

議員(1番 小林 和政君) 少し私とずれておりますけど、一々申し上げておるとまた時間内に到底終わるような話じゃありませんので、もうやめます。

私はあなたにお尋ねしたいのは、今後50年間の基礎をつくる根本的になるような考え方、理念。一番初めにあなたは、築上町の誇るところは歴史であり、自然である、こういうようなお話がありました。だから、これをメインに置いて何からの形で、その予算的にもそういう面に重点政策を置きながら、50年後にはこういう姿をつくりたい、こういう姿を見せていただきたいという気持ちでお尋ねしておるわけですよ。

ちょっと具体的なお話を少しします。きのうもメタセ近辺の開発の話吉元議員がなされてました。それで、あそこを開発する方向にいったらどうか、町長も前向きな答弁をされておりましたけれども、もしそういう気持ちでおられるのであれば、つい最近完成しましたあの橋、線路を渡る橋が完成しました。きれいになってます

よ。安全性は相当確保できたと思いますが、広さはもとのままなんですよ、広さはですね。だから、離合できるような状況ではない。

もし総合的な計画がある、あるいは大きなビジョンの中にメタセ近辺の開発をして多くの人間を集めたいというような観光の目的があるのであるならば、こういう事業をやるときにそこまで考えた上で道幅を広くするような対策も頭の中で置いておかれて、このような状況のときに前もってやっておくようなことも、大切な一つの考え方じゃないか。こういうような総合的な考え方の目標がないから、終わった、これをどうした、また隣につくるわけにはいかん。

ところが、都合いいことに500メートル先に行橋市が道をつくってくれよ。恐らくこれが頭にあって、あれを利用すればいいかというぐらいな気持ちで、他人のふんどしで相撲をとるような考え方があったとは思いませんが、偶然そういうこともありますけれども、総合的な計画の中で今これをやる、これをやるときにここまでやっとうやという考え方を考えるためには、大きな柱が必要じゃないかと。

私はこれを50年後の築上町の姿をつくっておいていただいて、それに向かってやっていくんだというようなやり方をやっていただきたい、これをこの7年間にやっていただけないような気がするから、今からでもつくるような方向にいったらどうか、このお話を申し上げたいから、築上町が変わるか、変わらにゃいけませんよ、無理かなという気持ちでお尋ねしておる、こう言うんです。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) あの道路も、本来なら2車線にやって通行をスムーズにするという形でやりたいわけでございますけど、これはJRとか、それからあの道路をつくったときのいきさつがございます。そして、その後には拡張したんですね、基本的には。だから、非常に防衛賞の予算がもらえないという形もございます。

原道の形であれば予算も防衛省つくという形になるけど、新規にもう一本つくるのであれば予算ももらえましようけど、莫大な金になるということで、これはもう当然あそこ非常にでこぼこがあって危のうございましたんで、これはJRからの通知もあっておりました。これをやらしてもらわないと、JRとしてはいわゆる上を占用しておるのを、ちょっとこれは問題があるというようなことでクレームがついてきておりましたんで、早急に危険防止のためにやったということでございますし、基本的には小林議員の言う一本大きな道をつくるという形になれば、当然私はそういう道をつくっていけばいいわけでございますけれども、町内にはそういう道はほとんどございません。

例えば、今そこ椎田の浜宮やから網敷線まで県道まで抜ける道がありますよね。あれ一本つくるにしても大変な事業でございました。あれは、ちょうど私が建設課長のときに、町長これやろうやということで提案してやった事業でございますけど、これ一本つくるのに非常に浪費というか、人為的な形、それからお金という形で非常に大きな金をつぎ込んだわけでございますけど、果たしてこういう道が必要なのかという、できれば県道、それから国道という形で、今だからこの地方をやっぱり大きくするための道路というのを、私は海岸線に一本この道路をつくるということで昔から構想があります。周防灘湾岸線道路という形で、これは私がやっぱ

りその大局的な目で見ても、じゃあ基地の人はどうするか、いや、トンネル掘ればいいじゃないかという話も私はしています。

というのが、羽田空港の辺なら幾らでもトンネルはあるわけですね。だから、基地の下だって掘れないわけじゃないでしょうと、こういう話を今やって、この実現に向けて少しずつ踏み出しております。というのも、東九州自動車道が平成26年度末、平成27年3月31日で完成をします。そうすれば、今まで国道10号線のバイパスだったのがバイパスじゃなくなると。よその地域は4車線化されておるけれども、行橋の辻垣から豊前のおこしかけのところまでは2車線であるということで、これはもう代がえとして早くこの4車線化よりもこっちにもう一本道をつけろということで強く、これは大局的に大きな一つの目標を持った形でのインフラ整備、これは県道、国道という形で実施をするように期成会も以前ありましたけど、中止になっておりましたけれど、再開をするというようなことで、この運動を一生懸命取り組んでいくという、これが基本的な大きな大局的なインフラ整備、道路事業でございますけど。

あと私が基本的に町長に合併して就任してすぐに、総合計画をつくらなければというところで私が持ち出したテーマは、一応小林議員が言う現状維持型の田園風景というものは、やっぱりこれは私は想定しております。

その中で、「自然と歴史・文化を育む」心と体の健康を求めた「豊かな生活の場づくり」ということで、総合計画委員98名の方にこのテーマでちゃんとうちの町の計画づくりをしていただきたいということで、13部会に分かれて計画書をつくっていただいたのが、この手づくりの総合計画でございますので、ぜひこれを私は実現していくのが一番肝要なことじゃないかなと思っております。

議長(田村 兼光君) 小林議員。

議員(1番 小林 和政君) もういいです。(「ちょっと」と呼ぶ者あり)いや、いいです。もう答弁要りません。(「ちょっといいですか、一言だけ」と呼ぶ者あり)私はね、具体的にどうのこうのをお尋ねしよるじゃなくて。

副町長(八野 紘海君) ちょっと一言いいですか。

議員(1番 小林 和政君) どうぞ、それじゃあ。

副町長(八野 紘海君) 議長いいですか、一言。

議長(田村 兼光君) 八野副町長。

副町長(八野 紘海君) 今基地周辺利用対策検討委員会を設置いたしまして、まだ町長のほうには答申はしてありませんけど、先ほど小林議員さんがおっしゃられました法線を変えて2車線という道路計画は、その計画図の中に組み込まれておまして、今微調整の段階で、あと町長に答申します。そういうことで、今小林議員の言われた構想の道路計画図は、きちんと図面に入っておりますので、できた段階で資料的には配付したいと思っております。

以上です。

議長(田村 兼光君) 小林議員。

議員(1番 小林 和政君) 具体的なお話をお尋ねする気持ちなかったんですよ。要するに、町長の目指す姿が見えないから、それを見せて住民の皆さんにしっかり見ていただくような形、先ほど町長の総合計画の話も、私も当時は議会にありました、それができたころには、そのとき具体的な数字、中身についての議論はしないままだから、実際議論の中でも表の2ページだけは議決の対象にするが、それ以外は検討してないんだから対象にすべきでないというような発言した記憶があります。だけ、そのことについてお尋ねしよったら、また切りがありません。

私は、あくまでもちょっともういいですか、「アベノミクス」という言葉で、安倍総理大臣になるんだということが決まった段階で、経済デフレ脱却の経済政策が発表された。実際何もやってない。発表されただけで株価が上がった。円安が進んだ。何もなされてない状態の中で、そういうふうな経済的な大きな影響が出てきた。

今ガソリン1リッター百五十何円かですよ、円安のおかげで。だけど、そういうふうに世界的に大きな何もしない段階から大きな影響が出てくる。今の社会は、発信力のある方が中身がなくともイメージづくりのための発信をするだけで、世の中が動く。この安倍さんのこの経済政策、実際今でもまだ具体的には余り動いてない。しかし、どんどん変化しつつある、こういうふうな発信力のある方がそのイメージづくりだけのために発信することによって、大きな流れが発生するような時代なんです。

別の面で言いますと、テレビに出て何をやってるかわからんけど、いつもいつもテレビに出ておる人が首長になったり議員になったりする方がたくさんおられる。世の中はその発信力だけで今動くような時代になっておるんじゃないか。いいとは言いません。私は物すごい嫌いなんですけども、そういう時代に流れをつくるには、極めて大切なイメージの、町としてのイメージを発信する努力、これが一番大事なんだろう。

極端なことを言うと、中身は要らないんじゃないかと思うんですよ、今の時代ではですね。ところが、この中身を整うた形を地元で有能な方たちがしっかりつくり上げて、これを発信することによって50年先にこうなるんだというような発信力を持った上で事業を進めていく、そのためには、ここは我慢してください、ここはこうやります、この予算の厚い、薄い面は当然あるべきと思うわけですよ。それをない、その大きなビジョンが見えない、恐らくないんでしょう。ないから、予算についても毎年の町政の運営についても、あっち行ったりこっち行ったりしとる気がしてならん、大きな方針に基づいてやっておるんはないんじゃないかと。

私は、後の項目で町のイメージづくりのほかに町政運営の原則とか、産業構造がどういうふうに変化させるべきなんだろうかというようなことまでやりたいと思っておったんですが、一番もとになるイメージをどういうふうな考え方でつくるか、私は今の時点で理解ができません。

これ以上お尋ねしても、恐らく大もとになる一番柱がないで、背骨がないで指の骨が折れた、どうするか、足の骨が折れた、どうするかというようなお話をしても何もならんと思いますので、これで質問は終わります。

.....

議長(田村 兼光君) 次に、9番目、5番、工藤久司議員。工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) 小林議員が30分で終わったので、私もそれを目指して町長、また副町長にも

答弁をいただくとと思いますが、積極的な意見をいただいて一般質問をしたいと思います。

先ほども小林議員の質問と大分ダブるところがありますので、そのあたりは御容赦ください。

まず、この質問、築上町の今後についてですが、何でこの質問をしようかと思ったのは、先ほど小林議員が言った新聞記事に出た各近隣市町村の予算の内容についてです。たまたま一緒だったんですけども、ほかの市町村はそれなりに子育てとか、云々とかっていうのがあったんですが、僕が見た朝日新聞には大型事業も大体終息したので、緊縮財政だみたいな記事があったんで、小林議員と同様何もないのかっていうのが大きな一つの疑問だったので、そのあたりを今までのやってきた経過も含めて質問したいと思います。

まず、今まで先ほど小林議員も言いましたが、町長と10年こうやっているいろいろやってきましたが、町長がやった政策で成就した、花開いた政策なり施策がまずあったのかどうなのか、あれば教えていただきたいと思っています。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) それは工藤議員が私の政策は花開いてないという考え方で今聞いていると思うんですけど、質問の要旨がそう、私は私なりに公約はほとんど実行してると。

先ほど小林議員の質問にも申しましたけど、ハードはほとんど私は公約しておりません、実際。基本的にはさっき申しましたような真面目な、どこからも信頼を受ける町づくりと、こういうものを目指していると。ソフト的に心の、だから心と体の健康の求めた生活の場づくりと、これが私の政策の中で大事にしてるところでございますし、その中でもやっぱり子育ては非常に大事だろうということで、何もないというのは、今までやってるから、もうこれ以上のことはちょっと、これ以上やったらどうなるかという形もあります、実際。

それはまたいろんな形で、子供の医療費をもう二十歳まで無料にするとか、そういう政策をやっても、私は義務教育まででいいと思っておるし、それはそれで一応ストップさせて、これはもう早くやってる。ようやく行橋あたりがそういうのにやっと目を向けて、子供の医療費とかそういうのを私どもの町は先行してやってきます。

それと、私は学校給食、これ全部自校方式でやりました、これは。これもやっぱり子育ての一環でございますし、そういうやっぱり教育とか、そういう子育てを支援を重点にやってきた。それとやっぱり村づくり、地域の中でいろんな話し合いをして、町のほうに要望してくださいと。そして、予算の範囲でそれは着実に実行してまいりますよということで、これはやっぱり住民自治を大事にした形で、それぞれの村づくりをやっていくという基本方針。

しかし、若干残念だけでも、この村づくりの中では差がございます。自治会長が独断で判断をして持って来るところ、それから、本当に総会までかけて、これで町に提出しますよという地区計画を出してもらうところと差があるんですけども、極力我々は皆さんにちゃんとお披露目をして、そして順位をちゃんとつけて出させていただく、これがやっぱりうちの町の特色じゃないかなと思って、よそにはこういう事例ほとんどない状況でございますので、私はこういう町づくりをしていくと。

そして、ハードは財政力に応じてやっぱり着実に、少しずつでもいいからこれを更新していかなきゃなりません。新たなハードという形になれば、これはまた国の予算をもらってやっていくという話になると思うんで、財政力指数が0.32くらいでございますし、何を言ってもやっぱり国に対してちゃんとお金をもらおうと。しかし、国から基地の町ですから、基地対策予算を重視しながらもらうという形になります。

しかし、住民負担になることは、これはやっぱりある程度国のほうにこれはちょっと考えてくれということで、今の基地の関係、この行政もよそにない行政でございます。基地のある町だけ特色の行政でございます、住民負担、これは騒音の問題が一番住民の負担になっております。この問題もきのうの質問でも答えたとように、これらのことで頑張っていかなければと、こういうふうを考えておるところでございますし、ぜひ御理解をお願いします。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) たまたまなんですけども、先ほど小林議員が結婚式だったですかね、出てますね。私も2月にふるさとに帰ってきました。何十年かぶりに同窓会があるということで帰って、またまた私の親友が市長選に出るといって、それも兼ねて行って来たんですけども、自己紹介をするときに、僕は福岡に出てもう32年ぶりに会うわけですよ。どういう紹介を私がしたかといって、町長がよく言われる大相撲を例に出して、新小結の松鳳山の出身の町ですと紹介をしました。

菅原道真も出てこなかったし、僕は生まれ育ってないんでね、菅原道真も出てこなかったし、天徳寺も出てこなかった、大楠も残念ながら出てこなかった。

そこで思ったのは、町長が一時期ありとあらゆるところで消防団、消防団と言いつつと思います。前回の一般質問でも、そういうものを育てるといっても非常に大事なことでないかなといって、質問させてもらいました。

背景は何かあったかといって、子供会組織がしっかりしてたり、子供会の育成会がいろんな行事を皆さんに頑張ってもらった結果が、こういう形で消防団とが事得たかとかいような形で出てきたわけだと思うんですね。ですから、今言った子育てということを重点的にやってきたと町長は言うが、なかなかその中学校まで医療費無料にしたけども、じゃあそれがどうだったのかといことなんです。

じゃあ、この地域にたくさんの方が転入をしてきて、小学校義務教育を受ける子供たちがふえたのか。じゃあ、ふえるにしても、住宅政策はどうなのかっていってところで詰め上がってくると思うんですね。じゃけ、医療費を無料にしたからといって、そりゃ非常に先駆けたことだと当時思ったんですけども、だからといってすぐそれが実になるわけでもないし、それにあわせてそういうものもきちっとあわせてやっていくのが、トップとしての政策じゃないかなと思いました。

以前もいろんなことをほんと町長目を三角にしてやったこともありますけども、こういうことをする、ああいうことをすると言ったのができてないといことは、何かの議会で言いましたよね。例えば例に挙げると、ごみを分別化するということもできてない、次のちょっと質問にもかかってくるんですけども、ピラ・パラディも自校で

全部やるというのも、いまだにできてないということに関しては、それまでの行政のやり方ってどうだったかなと思うわけですよ。

ですから、いまだにできてないことがたくさんある中で、あと任期も1年になりました。先ほど小林議員が言ったように、長期的なビジョンと短期的に手当をしなければいけないっていうのは、当然あると思うんで、一つは人を育てるということを長期的にやっぱやっていく環境を整えていただきたい。その環境というのは、そんなに町長金かからんと思うんですよ。何十億もするような体育館建てるとかね、球場をつくれとかいうような話じゃないんですね。

やっぱり人を育てるというのは時間もかかるけども、そのありとあらゆる可能性のある子供たちに、行政としているんな環境、施設もそうでしょうけど、その前の環境を整えてやるっていうのも大事だと思いますが、人を育てるっていう部分では、町長今度どのような政策があるのか。重点政策ということで聞いてますが、今後どんなようなことを子育てということも言っていましたので、それも含めてどういう政策をもって今後進めていくのかをお尋ねします。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 基本的には子育て、本当に大事な、だから今の築上町の施策を見て近隣の町村から住みたいなという要望があります、実際。私はよその行橋とか、豊前の人築上町いいなという話を聞きます、実際。そして、何人かはもうことし3月過ぎたら築上町に住みますという話も、何件か僕は聞いたことございます、実際。だから、少しずつではございますけど、やっぱり近隣の市町村からうらやましいなという声は出ておるっちゃうのは、これは事実でございます。

そして、今般コマレでいろんな文化講演会やりますよね。築上町はいいねという話も、先般ある代議士の新春の会で、5月にやった分で言われたんですけど、築上町はすばらしいねという、そういう話もございまして、やっぱり文化を目指す町というのも私は大事だろう。

先ほど中途半端なことも実際まだあります。生ごみを私は分別したいというふうな形で職員にはしてるけど、なかなか前向きにいかないという状況もございまして。これはまだ工藤議員にも協力していただきながら、湊をモデルにという話をしてたんですけども、なかなか前向きにいけない面もございまして。

これは、やっぱり環境問題では生ごみは土から出たものでございまして、土に返すのがこれは基本だと、これは昔からの決まりなんですね。農業で全部人間の排泄したとか、残滓は全部土に返すと。それがいつの間にかおろそかになってきて、化学肥料ばかりを使いたしたというこの問題は、やっぱり私はちゃんと土からできたものは、土にもう一回還元して循環農業をやるというのが、これは理念だと思っておりますし、こういう方向性で基本的には私は進めてまいりたいと。

そして、今のRDFの関係も、もう大体限界に来ておるような状況もございまして。修繕が非常に多くなって、あと次のことも考えにゃいかん。さりとて、一挙にやるわけにはいかんという形で、修繕しながらやっていっておるわけでございます。

それと大牟田の電源発電所ですね、いわゆるRDFから、これも基本的には大牟田もまだ28年度までは存続するというので、その間は大牟田のほうが大牟田で組織しておる組合よりも安くうちの町はとっていただけるということで、ほかのところは1万2,000円ぐらい1トン当たりかかるわけですけど、うちは9,500円でそのままでとってもらえると、そういう交渉もやってきておりますので、こういう問題もあるし、RDFには若干水分が要するという問題がございます。

そうしないと、固形化の中固まりにくいという石灰を混ぜてやるんで、そういう問題もあるんで、基本的には徐々にそういう分別化も私は、もうRDFは大体全部全てがこれは資源という形になっておりますので、そこんところがちょっとネックになっておるとというのが現状でございますし、本当にちょっとまだやり残しは多々あります。取りかかって中断しておるといふ事業も多々ございますけれども、基本的には私はある程度自分はこのようにやっていこうという考えの中で来ておる。

しかし、何かハードをすれば本当は目につくんですけど、ハードは極力抑えておるといのが現状でございます、そこは御理解願いたいと思います。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) 今町長言われたように、ごみを分別化とかごみの減量化っていうのにはそんなにお金はかからないでしょ。ちょっと議案質疑でも言いましたが、環境のまち築上町っていう例えばそういう宣言をしてもいいし、するんであれば人口割にはうちの町は1人当たり出すごみは一番日本一少ないっていうような取り組みでもいいじゃないですか。それがいろんな取り組みがあると思うんですけど、それをトップが決断をしてやることで、町民もやっぱりそれに向かって頑張ろうっていうところが、そのハード面じゃない町の取り組みになるし、町長の政策じゃないかなと思うんですね。

ですから、今言うRDFの問題になると、なかなか分別すると固形燃料にならん。町のRDFもそろそろ耐用年数が来てるとなれば、もう生ごみを一切出さず紙だけにする施設に変えるとかっていうことも、もう当然考えているのかなと思うんですね。

先ほど町長うちの町にも住みたいっていう人が若干おると、それは本当にありがたいことだと思うんですが、よく聞くのが、水道代が高いとか国保税が高いっていう話をよく聞くんですね。近隣に比べたらやっぱ若干高いんじゃないかなと思います。ですから、そういうものもあわせてそういうものを抑える運動というの、あわせてやっぱやっていただきたい。

うるさいことばかり言うと耳が痛いかもしれませんが、長野県は男女でも長寿日本一になりました。聞いたら、何でその日本一になるような雰囲気には僕にはないんですけども、大体寒いし、辛い物大好きだしいので、地域でやっぱり取り組んでるっていう話を聞きました。地域で取り組んで塩をもう本当に少な目にするとか、歩くとか、そういうのを地域でなんか義務化みたいにして取り組んで、要するに国保税かなんかも医療費の1人当たりの割合が相当かかってない県だと思うんですね。

ですから、そこらあたりはお金がかからなくて、そういう部分に関しても削減できるし、そういう取り組みをど

んどんやっていただきたい。

町長よく課に言うけどできないとか、やってないという言い方をしますけども、それは本当に言ってるのかなってところがあるわけですよ、もう何年もたちますから。ですから、やってないときは職員のせいにするんじゃないくて、職員のミスとかできてないことは、町長そこはみずから受けとめて、きちっと方向を出してやっていただかないと、何かちょっと花火は打ち上げるようなところがあるんですけども、なかなか大きな大輪になって開かないというようなので、どんどん推し進めていくような、今までもそういう傾向にあったような気がしたんで、そこは何か一つでもいいですから、子育てにしてももっと具体的に、そういうごみの問題とか、そういう問題にしても医療費の問題にしても、もっともっと具体的に本当にできるような政策を打ち出していただきたいと思います。

では、一番目の質問は終わりました、次に公共施設の見直しについてですが、コミュニティセンターが完成をして、産業建設委員会でコミュニティセンターの見学と蔵内邸を行って来ました。パッと見た目非常に立派な建物でと思ったんですが、我々素人でもわかるような、ちょっとこれどうなのってところがありましたので、もう一度確認をしておきます。

エントランスのところに屋根がかかってますよね。屋根の一番右側の出のところ、あれ水がダンドン落ちんですか。それと、こっち側の左側の建物、会議室とかがあって、屋根が微妙にあいてて、屋根とその建物が、恐らくあれから雨が相当降り込むと思うんですね。だれが見てもこう見たらすぐわかるのに、町長はソピアか、知恵というので僕が素人が見てもあれ雨がダンドン落ちてきたらどうするんだろうとか、雨が降り込んだらこれどうするんだろうかっていうような設計、それともう一つ入り口に入ったら、げいが中途半端で終わってるんですよ。

だから、あれから雨が落ちたらまた玄関に大分水が落ちてくしゃせんかなと思って、それはちょっと見て指摘をさせてもらったんですが、現実はまだ建ってから何日もたってますし、雨も降ってますので、その状況だけ教えてください。

議長(田村 兼光君) 渡邊企画振興課長。

企画振興課長(渡邊 義治君) 企画振興課、渡邊です。築上町コミュニティセンターのソピアの玄関部分のトラステントでございますけれども、当初のときから答申といたしまして、屋外ステージを併設した形のコミュニティセンタープラス多目的ホールというのもありました。屋外ステージを別に設定するっっちゃうことは、もう土地の面積、形状からいったらちょっと不可能だということで、建物の一部を利用した形でのトラステントの屋外エリア、そういったものを基本設計のときから入れてまいりました。

当初から屋外を活用したというスペースの確保の計画でありましたので、当然実施設計の中でもそういう議論もあったと聞いてますけれども、そういったことも風の量、それから風向き等々で降り込むというのは、ある程度は想定済みであったことでございます。

今後につきましては、また利用状況を見ながらどういう対策が必要なのかなということも見ていきたいとは

思うんですけども、ある程度は風、雨が入り込むのはやむを得ないのかなというような認識でございます。

以上です。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) また雨でも降れば、そこに何らかのお金がかかるわけですよ。恐らくですけどそうだと思います。ちょうど裏口ぐらいのところから、げいが2メートルぐらい出て、あれは雨が落ちるでしょうねっていうのと、奥もそうですし、せっかく建てるものであれば、そのあたりっていうのは設計段階でわかったんじゃないかなと思うんですね。これをまた雨が降るから、なんかそれにどうかするとか、これはまた雨が降り込んでくるからってしたら、また余分なお金がかかるのに、もう少し屋根を伸ばすとかなんかすれば済むことだったのが、結局こういう二度手間みたいになるような気がしたんで、確認をして恐らくそんな感じになるでしょうけど、そこらあたりっていうのも、なんかもったいないなという気がします。

そこで、当然新しい施設ができてくると、古い施設の建てかえの問題、特にきのうから小中学校の建てかえ、庁舎の建てかえ等もいろんな議員さんから質問が出てました。私はもう本当に中学校に関しては、2校そのままいくということで町長が明言しましたので、そういう形で行くんでしょうけど、やっぱり財源の問題も気になりますし、現実地域事情いろんなものを勘案した中で決断したと思います。

以前から言っている老朽化した施設っていうのが何かというと、老朽化か、余り利用されてない、先ほどもちょっと言いましたが、龍城院のキャンプ場、ピラ・パラディ、老朽化とすれば今度中央公民館とか、いろんな問題があります。ここが何か前回も言いましたけど、新しいものができる、古いものもそのままにしておく、全部抱えたら維持管理費だけは嵩んで、その分決断をして、その分を子育てに回していいじゃないかなと僕は思うんです。先ほど小林議員が言ったけど、厚いところ、薄いところ当然あって当たり前でしょうけど、子育てに厚く手当てをするのであれば、その分決断というのが大事になってくるんじゃないかなと思うんですね。

町長、合併当時に町民体育祭にシャンシャン祭りを廃止したじゃないですか。100億の予算も、うちの町は当初予算である町が、当時五、六百万ぐらいじゃなかったかっていう記憶がありますけど、その予算を削ったわけでしょう。今になってまた築上祭りとかいうけど、それはなかなか盛り上がりたと思いますよ。

僕もかかわってきたし、いろんな苦労があった。それはみんながボランティアでやってきたから、ああいうものが何十年って続いてできてきてるのに、それまで削ったわけですから、今言う老朽化の施設をきちっと見直す、時には廃止をするという決断をして、その分の予算をそういう厚い、もう少し手当てをしなればいけないところに回すというのが決断だと思いますが、町長いかがですか。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 必要に応じてはそれはやるとは思いますけれども、やっぱり住民の民意というのも大事でございますし、そのところも勘案しながらやっていくということで、今例えば旧椎田には町立保育園2つ持っております。これを統合という考え方も今あります。というのは、椎田保育園、葛城保育園、園児数が非常に少なくなってます。だから、統合という考え方で町立を旧椎田地区は1園にするという方向性も、これは考え

なきゃいかんかなという時期に来ておるとございませし、そういう話は、そのかわりサービスをどこかに統合すれば、そのサービスは今以上のサービスをするような形に持っていかなざるを得ないなという考え方で、統合すればバス通園等々も考え、今までは私立との兼ね合いでバス通園は遠慮しようということで遠慮してはいますが、そういう一つの考え方も私は持っておるということを御認知ください。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) いずれそういう時期が来るでしょう。保育園はやっぱり公立の保育園は統合せなきゃいけない。ひょっとすれば、みやこ町はもう廃止するようだったですかね、何かそういうような、みやこ町だったですかね、でもそうやって公立を脱会して私立にも任せていくってというような動きってというのは、どこの市町村も出てますので、当然その決断はしなければいけない時期が当然来るでしょうから、それと同時に、それよりも前にとってもいいかもしれないけども、先ほど私が言った施設の見直し、やっぱそこが町長の手腕じゃないかな、決断じゃないかなと思うんですね。

言うたら悪いですけど、ダラダラお金を予算をたれ流しするよりは、先ほど言ったところに予算を出したり、国保が高いなら国保税にその繰り出しに出してやったりとかいって、少しでも安くしよう、そして住みやすい町にもっとしましようというような考え方で進めていただきたいと思うわけですよ。

今予算にもまた蔵内邸の予算が載ってまして、調べたら2,000万ぐらいあるんですね。この予算書を見てもなかなかそういう数字が出てこないの、資料要求をしました。蔵内邸に関しては、いろんな私は蔵内邸の建物自体はすごいなと思いますが、町が抱えるほんと施設なのか、ほんとに町が持ちこたえられるのかってというのは心配がありますし、今まで進めてきた経緯というのも、なかなか何か4月18日ですか、オープンといいますが、そのオープンに何をするのか。オープンにとりあえず何をするのか、そんな計画がありますか。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 質問の要旨がないようだけど、オープンという形で、これは基本的には歴史的な形のものを皆さんに見学をしていただきながら、その際に若干催し物等々をやりながら客集めをやるということで、基本的には維持管理費を捻出するために見学料をいただくという形で、それ相応のある程度維持管理が出るような形で頑張っていくということでございまして、工藤議員はもう最初からこの問題をやろうとすら否定するしね、それでやらにゃ何かやれ、何かやれっていう、もうちょっと矛盾しちよるけど加勢してください、お願いします。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) そこがね、町長のなんていうか次元の低いとこよね。それとしか言いようがない。僕は何かするなって言ったことない。できないものはできない、することをさっきも言ったように、厚いところと薄いところっていう、そのめり張りですよ。もう蔵内邸ほんと950万入場料載ってましたけど、割ったら1日何人ですか、だれか計算してます。365日、事務長、八十何人来にゃそんな数字にならんわけですよ。可能ですか、今のやり方で。僕はほんと今度予算、産建の委員会があるから、そのときにでもいろいろ言わせても

らいますが、余りにももう買って何年になります。オープンももうしなきゃいけないっていうのもあって、これ何もないっちゃほんとね、職員も怠慢だろうし、なさけないねって思う。何かないんですか、その最初が肝心っていう話もあったじゃないですか。いや、町長他の施設。それも予想してね、予想ができなかったという、余り言う気はなかったんですけども、それも町長考えてくださいよ。何もない、1年間、買って何年間かわからんけども、忘れたけども、2年ぐらいなるのかな、これオープンに向けて何の催し物も考えてない、きのう議員が言われました、やっぱり最初が肝心。それなのに、そんなありきたりのオープニングをやって、ちょっと新聞にパラパラと出て、それで950万という入場料が、運営費ができるって考えてる人が本当にどこにおるのかなと思うと、ほんと世間を知らな過ぎるというか、と思いますよ、はっきり言って。

ですから、もっと職員も動かしてほしいし、町長がアイデアを出してどんどんやったらいいじゃないですか。何かオープンだけが目的で、捻出するとは言うけどね、何かそこにほんと先がない、もう見えたなというような感じが僕はしてはならないんですが。

議長(田村 兼光君) 八野副町長。

副町長(八野 紘海君) ちょっと質問がどうか、いかがなものかなって感じがしますよ。職員が何もしてないとか、云々くんぬんちゅうのは。

購入してから2年間ほんと文化担当の職員、それで商工課、生涯学習課、あの中での文化財の国庫補助金をいただいて、きちんとオープンに向けて整備をしておりますし、かなりの補助金もいただいて中の整備はやってきております。別に2年間何もしてないっていうことじゃありませんし、これはもうアンケートもとって築上町の宝というような御意見もございませぬ。そういう宝をいつまでも保存してくださいというような意見もございませぬし、それに向けて職員頑張っておりますので、何もしてないということはありませんので、以上です。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(5番 工藤 久司君) 何もしてないっていうのは、それは整備するのは当たり前のことですよ。そじゃけオープンをするまでに当たっての、整備はそりゃ当たり前です。これはするの当たり前じゃないですか、それ。何もしてない、その先ですよ。その先、先ほど言ったように、何かあるのかなと思ったら、ありきたりのセレモニーか何か、僕が予想するのに、私が予想するのであって、開館が行われてというようなパターンなのかなと思うので、もう少しあの施設を利用する方法っていうのは、だれもなんか考えてないのかな、考えているんだろうけど、なかなか見えてこないんで、そのあたりはまた済ませませぬ。産建の委員会でうちに予算が載ってますので、聞きたいと思います。

小学校、中学校に関しては、きのうもいろんな議員さんが言いましたので、割愛させてもらい、一般質問を終わります。

.....
議長(田村 兼光君) ここでひとつトイレ休憩を5分間ほど。11時15分から再開します。

午前11時07分休憩

.....
午前11時15分再開

議長(田村 兼光君) それでは、会議を再開します。

次に10番目、14番、信田博見議員、信田議員。

議員(14番 信田 博見君) 前の方が早くということで終わってますので、僕も早く終わりたいと思います。

光通信についてということで通告をしております。今町内各地でいろいろBBIQの配線工事をやっておりますけれども、これができたならば、この築上町にとってどうなのかという、ただインターネットが速くなるとか、そういうことだけじゃなくて、ほかの市町村にはないBBIQだけが町内に張りめぐらされるということで、結局町とBBIQとが何かちょっと契約をすればできるような気がするんですけど、町長何かそういう気持ちはないですか。

議長(田村 兼光君) 吉留総務課長。

総務課長(吉留 正敏君) 総務課の吉留です。光ケーブルが全町張りめぐらされた場合、これを使ってさまざまな施策が考えられますけど、今回築上町やっておりますのは、民設民営でこの光ケーブルは町のものではございません。民間のものにということになりますので、将来これを使ってやるとしても、その通信事業会社に使用料を払ってやるということになってまいりますので、既に他の自治体でやっていると同一ようなことが果たしてできるかどうかというのは、少し疑問に思います。

これを例えば使用料を払ってやるということであれば、ケーブルテレビとか、防災無線の端末を各家庭に配布いたしておりますけれども、これを光を使って行えば顔を見ながら相互通行でお互いに話ができるといったことも考えられます。いずれにしても民設民営でございますので、現時点ではそういった政策は特段考えておりません。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) はい、わかりました。

しかしながら、考えてみるとほかの市町村にはほんとういうことはないんじゃないかなと、NTTがあり、BBIQがあり、いろんな会社が入ってるわけですけども、うちはもうBBIQだけということで、だから私も加入の手続をしましたけども、BBIQの電話を使うとBBIQ同士だったら電話は無料だと。それから、基本料がNTTは千何百か基本料がかかるんですけども、基本料がかからないと。ですから、全世帯がBBIQ電話にすれば、町内全て無料ということになるわけですね。

こんなことだったら、NTTがすりゃよかったなと、後でそう思うかもしれませんが、そう思わせるのも一つの手かもしれませんが、行政としてNTTにもいろいろ働きかけたけどもできなかったと、いろいろ苦労したその上に、その結果がこういうことになったわけですから、BBIQだけというのはいい面もあるだろうし、また競争の原理が働かないという悪い面もあるだろうし、どっちがいいのかわかりませんが、今課長の考えだったんですが、町長はなんかそういう考えはないんですか。

議長(田村 兼光君) 新川町長。

町長(新川 久三君) 基本的には今課長が申したとおり、所有権はBBQにあるという形になりますし、私も町はいわゆる負担金を配線に対して出していったという形、この場合、もうプロポーザルということで、NTTとBBQと、それからもう一社ちょっと覚えてないですけど、2社がプロポーザルに合格したんで見積もりを出してもらったということでございますんで、そして見積もりの結果とか、それから住民の負担の状況、先ほど信田議員が申したように、住民の負担の状況で料金が安いというのが決め手になったわけでございます。このプロポーザルにおいてですね。

そして、後の形態というのは、これはNTTであろうと、BBQであろうと、ほかの会社であろうと変わりはないというふうな形になりますし、そういう形の中で後は町が何かしようという形になれば、回線の使用料を払って町の放送局という形にすれば、使用料を払っていかなきゃいかんという、先ほど課長が説明しましたけど、そういうことで、またそのままNTTを利用する方は、ADSLというのがまだ全町通っておりますんで、これを利用してもらえれば、しかし通信の速度が遅くなるという不利な点がありますけど、もう非常にこの光を導入して、2チャンネルで僕の悪口ばかり言っちゃうのが、この光を入れたのはほめてくれちゃうのがあるんですよ、はい。

僕も見てびっくりしたんですけど、もう僕の悪口ばかり2チャンネルで書きちゃうのがおるんですけど、(笑声)この光の導入だけは、「おお、町長これでかしたぞ」というふうな形で、2チャンネルということで、もう名指していいわとかいう投稿欄があるんですけど、そういう状況もあるようでございます。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) そういうことで、4月から実用化ということで、一部で実用化できるということでございます。ほかのまちにはできない、この築上町だけの何か考えていただきたいなと思います。

次は、今度は光テレビなんですけども、地デジとその光テレビの関係をちょっと聞きたいと思います。

地デジ放送になってもう数年たちますけれども、まだまだ町内には地デジが映らないということで、もうアナログ放送がなくなったんで、全然放送が見れない、テレビが見れないという世帯が、総務課に聞きましたら11世帯、今町内にあるそうであります。ですから、この光が届くことによって、光テレビにつなげば、その地デジもBSもアンテナなしで見られるんですね。

ですから、見えない世帯というのは、やっぱりたしか国が責任持って見れるようにしなけりゃいけないんだろうと思いますけども、いつのことやらわかりません。それは、もし光を引いてその地デジが見れない世帯の人たちが、この光を使って地デジを見るようになった場合、どうしてもお金がかかってくるわけですから、そのところを国やら町が何か補助するなり、何千円かかかると思うんですよ。そこんところはどうなんでしょう、課長に聞きます。

議長(田村 兼光君) 吉留総務課長。

総務課長(吉留 正敏君) 総務課の吉留です。今信田議員言われましたように、町内で地上デジタル放送

が受診できない地区が5地区ございます。これらの地区の方につきましては、国が5年以内に恒久対策をとるということで、それまでの間は暫定的に国が衛生放送による地上デジタルテレビを受信できるように今暫定的にしております。いわゆる東京の放送を受信しているということで、通常のキー局がつくる番組については全く支障ないんですけど、いわゆる地元の民間放送局がつくるローカル番組だとか、ローカルニュースが受信できないという支障がございます。

いずれにしましても、5年以内に恒久対策をとるということでありまして、現在4年目に入っております。あと1年数カ月で5年になりますので、それまでの間に国のほうが、ほかの家庭の方々と同じような受信ができるような対策はとっていただけるものというふうに思っております。

それから、今5地区あると申しましたけれども、そのうち3地区につきましては、対策方法が検討されておまして、近いうちに地上放送が受信できるということになると思っておりますが、残る2地区、具体的には極楽寺と龍城院ですね、この2地区については、対策は困難という報告を受けております。いわゆる対策と申しますのは、共同アンテナを立てて、そこからケーブルを引いてテレビを受信するということですが、この2地区につきましては、山が邪魔になりまして、山の山頂ですね、山脈付近にアンテナを立てないと電波が受信できないと。そこから各家庭にケーブルを伸ばしますと、相当な距離になるということで、その土地の所有者の承諾等が要りますので、現在対策が困難とされております。

この2地区につきましては、また違った対策はまた近いうちにお示しいただけるものと考えております。また、これにつきましては、デジサポという民間放送電気工事会社が国から委託を受けて、住民の皆様との連絡調整を行っておりますので、このデジサポからまた関係する世帯の方々につきましては、何らかの連絡はまたあるというふうに思います。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) あと1年でもう5年になるわけですけども、5年でもし見れないという地区があるならば、それはこれやっぱし国が責任持って見れるようにしなければいけないと思うんですけども、そこで光が通じれば、その光で見れるわけですから、その光につなぐと、テレビだけつなぐとかなり高くなると思うんですね。BBIQに加入してテレビを見るということ、かなり安くなると思うんですけども、そういったところでその受信料というか、それを町のほうで半分、国が半分とかいう、そういうやり方というのはできないんですかね。

議長(田村 兼光君) 吉留総務課長。

総務課長(吉留 正敏君) 総務課の吉留です。今申し上げましたように、5年以内に国が恒久対策をとるということでございますので、どうしてもその対策はとれないということであれば、今議員が言われたようなことも一つの選択肢として、国のほうからその施策、代替施策として連絡があるかと思っておりますけれども、まだ1年数カ月残っておりますので、現時点でその受信料の補助を町がするかどうかについての答弁は控えさせていただきます。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) 最善の策をお願いしたいと思います。やっばし町で見れること見れないところがあるというのが、これ国の政策ですからね、やっばし国がせにゃいかんとでしょうけども、本当にどうかして見れるようにしてくださいというのが、そういう声が届いておりますので、よろしくをお願いします。

次に、農林業のシカの被害についてということですが、イノシシ、あるいはシカ、それからいろいろ害鳥、害獣、いろいろあるんですけども、もう何回も対策について質問しました。丸山議員も質問をしたと思いますが、町長は広域で取り組むようになるだろうという話をされたんですけども、その後どうなったのか、お願いします。

議長(田村 兼光君) 中野産業課長。

産業課長(中野 誠一君) 産業課、中野です。議員さん御質問の広域の協議会の件でございますが、大分県の中津市を中心とした大分北部・福岡東部鳥獣被害防止対策協議会というのに昨年の5月から京築の市町と一緒に加入しております。この協議会を経由しまして、国のほうに補助事業を申請をしまして、平成24年度には下本庄地区のシカ防護柵を地元施工で施設しております。25年度につきましても、同じく広域の協議会を通して国のほうに補助申請をする予定で、当初予算にも防護柵4,000メートル分の予算を計上いたしております。

以上でございます。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) 防護柵というのは、どういう形の柵なんですか。ネットですか、それとも何か柵を張るんですか。

議長(田村 兼光君) 中野産業課長。

産業課長(中野 誠一君) 産業課、中野です。メッシュの金網でございます。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) そういうことをしてくれないから、自前でのり網的なやつを張りめぐらせてるわけですよ、田舎のほうは。そしたら、そののり網にシカが絡みついてかかってしまうんですね。それで、これは大変だということで、そのシカをとるなり、逃がしてやるなりしようかなと思ってシカに近づいたところ、パコッと蹴られるわけです。もう下手すれば死ぬかもしれません。そういう危険な部分があるんで、そういう金網ならばかからないのかなという気がするんですけども、もうとにかくもしそういうとこにシカがかかったときは、近寄らないように、死ぬのを待つということしか手がないんじゃないかなと。

勇敢な人は行って眉間をたたいて殺したとかいう人もあります。そして、それを食べたというありますけども、そういうことをできる人は少ないんですね。本当に危険なんで、そこのところはよく考えてしていただきたいなと思います。とにかく早くしないと、もうとにかく数が多いんです。もうそれは山のほうに行って見てください。夜40キロぐらいで林道なんか走ってみてください。かならず1頭、2頭飛び込んできますんで、今シカとるの

鉄砲要りません。車1台あればシカがとれます。

ということで、本当に危険ですから、ぜひ早目にやっていただきたいと思います。山のほうは余り町長にしる、副町長にしるあんまり行かないだろうし、その被害もよくわかんないだろうと思いますけども、ほんとすごいんです。ほんといつか私言いましたように、10頭単位でおるとい、今度は10頭単位じゃないみたいです。まだ多いみたい。もう団体でおるみたいなんです。ぜひ早目の対策をお願いします。

それから、林業の被害が著しいということで書いてありますが、ほんと林業の杉、ヒノキ、雑木あたりがシカの角とぎ被害という、角をとぐんです。男同士の戦いのために角をといで、それで女性を争うために角をとぐんですけども、その角とぎ被害が物すごい激しいんです。ヒノキとか杉とかの根元を全部皮をむいてしまうんです。ですから、シカとかイノシシはその山の中に自分が水を飲むところをつくっておるんですけども、その周辺のヒノキとかいうのは、全部皮はむかれ、1反、2反全滅というところもあります。

ですから、本当に目につかないんですけれども、だんだんと築上町の財産が減っていったのは確かなんです。それから、水源涵養とか、いろんな部分の保安林的な部分もだんだん失われていきます。ですから、とにかく数が多いと、これを少しでも減らさなければいけないと。

原因は何だか聞いたら、天敵がいらないからということなんですけども、それだけじゃなくて、今シカの天敵はハンターらしいんですけども、ハンターがだんだんと減ったということも一つの原因だそうです。今は何かちょっと法律が変わって、申告をすれば農業をしてる人たちがわなをかけて、シカをとってもいいというような、そういう制度もあるという話も聞いたんですけども、あるんですかね、課長。

議長(田村 兼光君) 中野産業課長。

産業課長(中野 誠一君) 産業課、中野です。講習を受けていただいて、免許をとっていただくのは変わっておりませんけども、農家が自分の農地を守るためにわなを仕掛けるということは可能でございます。

議長(田村 兼光君) 信田議員。

議員(14番 信田 博見君) とにかく山間部の人たちは、といってもほんともう小原小学校のまだずっと下まで、もうシカの被害が広がっております。ですから、だんだんと山のほうからずっと平地のほうにおりてきているのが現実でございます。ぜひ早目の対策をお願いしたいと思います。

以上で終わります。

議長(田村 兼光君) 次に、11番目、4番、工藤政由議員。工藤議員。

議員(4番 工藤 政由君) それじゃ、もう一番最後になりましたが、一般質問させてもらいます。皆さん早く終わりますんで、きょうは昼からかと思ってましたが、もう昼までに終わりたいと思います。

いつも大体同じことで、将来についての話を大体一般質問のときにはしてると思うんですが、本来議員として年に4回の定例会、一般質問の時間っちゃうのは、議員にとっては一番花形の時間、一番やっぱり有効に使わにゃいかん時間だろうというんですが、残念ながら緊張感をもって議論するというのがなんかできなく

なったような気持ちであります。

それはなぜかという、今まで皆さんきのうからずっと御質問をされてますが、検討しますはやらないとか何とか、きのうそういう発言もありましたし、幾ら言ってもぬかにくぎ、僕は一つ大きく思うのは、町長はもう政治家としてのビジョンがない。だから、そのビジョンのない者にいくら議論しても、もうぬかにくぎみたいな話で緊張感を持ってない。昔の議会の話をすると、また皆さん嫌がるでしょうが、昔は「議会の傍聴する会」というものがあって、後ろにかなりの人が来て、やはりそれが議会ではこういう議論があったよというような話で、当時は井戸端会議の一つの話にもなってます。今は全くそういうようなこともない。今後ろを見ても一人の傍聴者もないというようなことで、もう全く緊張感が保てないような状況で、議論するのもなんか気合が入らないような状況です。そう感じてる議員さんも中にはおられるんじゃないかと思います。

この前の議会改革委員会で、この議会の様子を最低限中継して、どの議員がどういう話、どういう議論をして、町長がどう回答をしたということを最低限の情報を住民に伝えてはどうかというような提案をしました。テレビ放映しようというような話までできています。みやこ町は実際やっています。そういうことをやって、本当に実のある議論をこれからしていくというには、やっぱりどうなんですか、やっぱり聞いてくれる人、見てくれる人、また町でそれが話題になるというようなことになるとということが大切じゃないかなというふうに思います。

そういったことで、一応質問しますが、将来のビジョンについて今回資料要求をして、各課の目標を資料を要求して資料が上がってきました。これサッと目を通した中で、これはどこの課でもこんなことはするだろうと、もう想像する想定内の回答ばかりです。

一つ言わせてもらえば、これも笑うしかなかったんですけど、税務課の回答、この紙の中に一言、税の徴収率の向上って書いてました。これただそれだけ。もうこれは見て笑うしかないんですが、議員ばかりにしちよるんかというよりも、見て笑うしかないんです。

税の徴収率の向上、ちゅうやつはどういう方法で、どういうやり方で税の徴収率を上げるとか、どういう方向、こういう方向でやれば税の徴収が上がる、こういう方向でやればみんなが税金払ってくれるというようなことを具体的に書くのは、常識じゃないかと思いますが、税の徴収の向上しか一行こればっと思っただけです。もう笑うしかなかったんですが、何ていうんですか、もうみんな考えようとしなない。

ああすればもっとよくなる、こうすればもっと町が活気づくとか、考えようとしてないというのが、この各課の目標の中で見えてきます。地方と中央との決定的な違いというやつ、この前僕は聞いたんですけど、中央は仕事をつくる。仕事をつかって、こういうふうな方向で地方を動かしていけばというふうな、中央は仕事をつくるんです。地方は中央がつくったことをそのままやるということで、なかなか自分で考えようとしなないというのが、地方と中央の決定的な違いですが、これ如実にあらわれてます。職員本当に考えておるんかと。

ただ国からの下請けみたいな事業をやっていけば、もうそれでことなかれ主義で1年たって終わりと、何もしない町、何の特徴もない町で終わってしまうというようなことになるんじゃないかと思います。それで、それに歯どめをかけ、職員を考えさせるといったことが、リーダーの資質じゃないかと思います。そういったことを

いろいろやってみたいですが、これも議論してももうせんないことだというふうに思います。

きょうはちょっと聞きますが、各課の取り組みの中で、これ一番懸念してるんですが、10年先の農業のビジョン、農業施策、これについて築城町はよく知りませんが、椎田町はサイバー事業でやった関係上、50%以上が営農組織でやっていると、営農でやっているとします。今この営農のほうも高齢化が進んで、あと10年先まで営農が続くかと、今のままの営農で続くか、後継者がいないというような問題もあるでしょうし、この基幹産業である農業が衰退してしまうんじゃないかというような懸念がだれも持ってると思います。そういった中で、新規就農者ということを考えて、新規就農者がうちの町で農業をしたくなるような人をふやすというような施策をぜひ考えていかないと、農業は終わってしまうと思います。

僕はこれは昔漁業、これに関しても宇留津の漁港が完成しましたが、これも宇留津の漁港を拠点にしてやらないと、椎田は5カ浦か、今津入れて5つあったんですが、これもひとつ拠点をつくらないと、椎田の漁業も終わってしまうというような考えで、宇留津の漁協も最後の採択でしたが、これを必死で採択もらいました。

そういった意味で、漁業が今どうなっているか僕はわかりませんが、農業に関しても10年先のビジョンを持って当たらないと、本当にこれ手おくれ状態になってしまうと思います。そういった意味で、僕のところにも今1人来ました。北九州のほうからこの辺で農業をやりたいと、3人ぐらいのグループで来て、本気でやりたいということで、今その人はハウレンソウをつくらうというような話で、名古屋のほうにハウス栽培に勉強に行ってます。

そうやってやりたいと、やる気がある若い人を受け入れるような体制を積極的にやってほしいと思いますが、いろいろ聞きました。まだ耕作放棄地の把握は、農業委員会のほうでしてるかどうか知りませんが、それうちの産業課、今は何ちゅうか知りませんが、産業課のほうでもこれに対しての補助金、またそこに住み込んでやるわけですから、空き家に対してのいろいろな援助、またそういう情報を流してやっていけば、結構若い人も土になじんで、農業をしたいという人はかなりいるみたいです。

そういった人をこの町に招致して農業を活性化するというような施策を積極的にやってもらいたいと思いますが、担当課長で結構です。何かそういうふうな考えはありますか。

議長(田村 兼光君) 中野産業課長。

産業課長(中野 誠一君) 産業課、中野です。新規就農者の助成については、今国のほうが昨年から新規就農者地域の担い手と認められた、位置づけられた方に対しては、年間150万、5年間のそういう補助制度がございまして、現在5名の方がその交付金をいただくように、昨年からいただいております。また、今年度も引き続き続いていくみたいですし、今御相談に見えてる方がそのほかに4名ほどおりますので、何名かは築上町で就農したいということで、申し入れは来ております。

それから、住居の世話については、まだ今のところそういったあっせんとかいうことは具体的にございせんが、企画課のほうで始めた今度空き家バンクとか、それから町営住宅の空き家を利用して、そこに住んでいただくとか、そういった方法もあると考えております。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(4番 工藤 政由君) そういう人が5名来ていると。僕の知り得た情報の範囲で、その農業委員会が用地を借りるにしても、農業委員会が認可しないと、農業者として認めないから補助金はもらえないというような仕組みになってますよね、これ間違いなくね。そういうふうになってますが、それぐらい5名来てるんですが、その地権者と新しく就農しようという人の賃貸契約が、4月1日からそれスタートするんでしょうけど、もうそういう手続まで終わっとるんですか。

議長(田村 兼光君) 中野産業課長。

産業課長(中野 誠一君) 今私が申し上げた5名の方は、もう既に農地を取得してる方で、今度新たに親の跡を継ぐとか、どなたかがハウスをやめた後に入って就農するとか、そういった方でございまして、今から新たに町外から来て、農地を求めて始めるっていう例はまだ産業課のほうには来ておりません。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(4番 工藤 政由君) それでも新規就農者というんでしょうけど、要するに兼業農家になろうとしてるんじゃないんですか。その仕事をしながら兼業してやろうと。その認定農家になろうとしてるその新規就農者かどうか、よくわけがわかりませんが、その認定農家を目指してやろうとしているでしょうね。もういいや、それは。

それはそれでいいんですが、そういう努力をぜひして、例えば要するに特典ですよ。これうちの町で新規就農すれば、こういうものがついてきますよと、こういうのがありますよと。例えば、圃場の近くに納屋つきの空き家があると。その納屋つきの空き家も、皆さんたちが使えればそれも提供できます。その近くにはこういう圃場があると、そういうような情報を外に発信するような手段があれば、新規就農者もおおさらふえてくるんじゃないかと。

また、それに関して町のほうも何とかの減免措置、補助金とかそういったものも考えていけば、新規就農者もいっくらかふえてくるんじゃないかなと。このまま推移していけば、10年先には営農も結構厳しい営農がかなり出てくるんじゃないかと、もう高齢化してますから、できないようなことになってくるんじゃないかと思います。その辺が心配です。

それと、次にさっきも言いましたが、町長子育てに特化して、私は子育てについて一生懸命やってきて成果も上がってるというような話しましたが、僕の聞いたところ合併した当初に、一律2割補助金をカットした経緯があると思います。僕はそれは知りませんよ。そこの幼稚園が補助金やってました。町から補助金をやってましたが、僕はその当時そこの子育てに関して、僕はそこの補助金を倍以上にしました。2割カットして、2割カットしたまま、その補助金そのままカットしたままで今日まできているような話を聞いてますが、そういうことまで補助金を2割カットしてそのままにきて、子育てを一生懸命やっていると。子育てには私は力を入れると、具体的にどういう部分でどういう成果を上げて、こういうことやったからこういう効果が上がって、こういうことになって、さっきも言いましたが、外からうちの町で子育てしたいという人が何人かいますと言いましたが、

それは本当に奇特な人で、どういう理由でうちの町に住んで子育てをしたいのか、もう聞きたくもない、それは答えなくてもいいんですが、そういう人がいるのであれば立派なことですが、そういう補助金もできれば2割カットする前の補助金に戻してやるべきじゃないかなというふうに感じています。

これ税務課長に聞きますけども、さっきも言いましたが、徴収率の向上、その職員いじめするわけじゃないんですよ。徴収率の向上するためにどういう手立てを講じるのか、ちょっと教えてもらいたいんですが、夜間徴収を強化するとか、そんなあほらしいこと言わんでくださいよ。それでちょっと教えてください、課長。

議長(田村 兼光君) 田村税務課長。

税務課長(田村 一美君) 税務課、田村です。徴収率向上のために、現年度の督促状を20日以内に4回交付して、それでない場合に対して滞納処分ということで、かなりの成果を上げていることです。

以上です。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(4番 工藤 政由君) それでかなりの効果を上げているから、じゃあことしはどうするんですかちゅうんです。ことしはね。もういいよ。だから、夜間徴収も強化して、その督促状を出して、それ払わん者は裁判して取り上げるとか、そういうような話しかないんでしょうけどね。書いてくるんなら、資料を要求して出してくるんなら、こんな今後はこの1ページに徴収率の向上とか、議員をなめたようなことはやめてほしいです。

それと、もう最後にしますが、これ一つ聞きたいんですが、今年度補正予算で大型補正で、自民党がアベノミクスとか何とかいうて大型補正しました。それに関して幾らか事業費が下水道課のほうでそれを受けてますが、今後今年度の事業費、これも資料要求して出したんですが、去年より少ないんじゃないかというふうに思います。それで、当初予算は計画がない限り、そう事業費が変わってこないと思いますが、またこれ恐らく景気が向上しないと、また大型補正をするんじゃないかと。これもそうやって想像して準備するのが政治の役目だろうと思います。

そのために、恐らく景気が上がらなかつたら、もう一回また大きな補正があるかないか知りませんが、あると想定すれば、事業をつくってないと、受け皿がないと、いくら国が大型補正つけても予算来ませんよね、これ。

だから、例えば産業課は林道を一本入れるとか、この辺に林道を一本入れる。昔ね、クロエゴシの林道ってあったんですね。岩丸から櫛原に越える林道、これを計画したんですが、築城のほうは用地を買うとか何とかかんとかで、うちは無償で林道を買ってましたから、その辺の整合性がとれなくて、あの林道は廃止、やめました途中で。一緒にやろうとしましたが、だから、そういった林道の計画、まだ砂防なんかこれただでできます、ただ。

砂防の計画が林道をつくったりとか、これ県営の砂防になるでしょうけど、そういったものを計画がない限り、いくら国が大型補正事業費をつけたとしても、うちの町には金が来ません。それも見越した上で、建設課、産業課のほうも今の一例ですよ、新しい新規、防衛庁の民生安定事業とか何とかっていうのも、その計画なり

そういうものをつくって、受け皿をつくっていったほうが、この町に大きな予算が来る可能性があります。それが全く計画がなかったら、いくら大型補正が来ても受け皿がないから事業は来ません。そういった意味で、そういうことを先を予想しての計画をしてるのか、してないのか、担当課長に聞きますけど、ないですか。

議長(田村 兼光君) 平尾建設課長。

建設課長(平尾 達弥君) 補正予算を対応の事業のストックということについては、現在今回もそうですが、緊急に対応ができるものだけをちょっと上げたような次第で、全体的な対策を含んだところは、これは町全体の計画をどうするかということも絡んできますし、その辺の打ち合わせ等が今現在ではやってないということが実情です。

議長(田村 兼光君) 中野産業課長。

産業課長(中野 誠一君) 産業課、中野です。産業課につきましては、今のところそういった国の補正に対する事業としては、いきのタンクが今度8,000万計上しておりますが、これは国の補正の対象になると考えております。

以上です。

議長(田村 兼光君) 工藤議員。

議員(4番 工藤 政由君) おれが言いたいのは、今後景気が上がらなかったことを予想したら、計画をたくさんつくったほうが得じゃないですかと。これは、上から数字が来ないとなかなかできないことでしょうか。そういうふうな先を読むと、これが一番政治で大事なこと、政治をやるに対して大変なことだろうと思います。だから、そういうふうなことを考えて、事業の計画だけここをやるかというようなことを、今から考えていったほうがいいんじゃないかと思います。

もう12時になりましたから、これで質問をやめます。

議長(田村 兼光君) これで、本定例会での一般質問を全て終わります。

議長(田村 兼光君) 以上で、本日の日程が全て終了しました。これで散会します。御苦労さんでした。

午後0時01分散会